

次は秋田だ!

まんずあべ!



機械学会さ!

—秋田に集うしっただけおもしろい技術—

🐾 開催日 🐾 2019年9月8日(日)～11日(水)

🐾 開催場所 🐾 秋田大学 手形キャンパス

🐾 大会テーマ 🐾

「サステナビリティ」「AI 社会の機械工学」
「少子高齢化・人手不足を支えるテクノロジー」

次の年次大会は2019年9月8日(日)から11日(水)まで、秋田大学で開催されます。秋田はあまりなじみのない会員も多いと思いますが、いま秋田では平昌五輪フィギュアスケート女子の金メダリストが一目惚れした秋田犬^{あきたいぬ}に会うことができます。また、第100回目の夏の甲子園で秋田県勢として103年ぶりに秋田市の県立金足農業高校が決勝に進出しました。そして、年次大会「次は秋田です!」。秋田に新しい風が向かってきています。

2019年度年次大会では新しい試みを検討しています。これまでの年次大会と大きく変わるのは、部門融合のオーガナイズドセッションを拡大すること、学生の発表はポスターセッショ

ン(短い口頭発表を含むポスター発表)に集約することです。ポスターを使った充実した討論や部門の垣根を越えた議論により、年次大会が機械工学に関するイノベーションの場になることを期待しています。秋田における年次大会で新しい仲間を発見しましょう。

「まんずあべ!秋田さ!」(訳:まず、一緒に行きましょう!秋田に!)
会員の皆さん、是非ご参加をよろしく願い申し上げます。

2019年度年次大会 大会委員長

<フェロー> 秋田大学 大学院理工学研究科
システムデザイン工学専攻機械工学コース 教授
渋谷 嗣 専門: 固体力学、複合材料の力学、精密機器設計など

次号から、全9回にわたって秋田の魅力シリーズをお伝えしていきます。

日本機械学会 2019 年度年次大会開催に向けてのメッセージ

歴史ある一般社団法人日本機械学会の 2019 年度年次大会が、全国各地から多くの皆様をお迎えして、秋田県で開催されることは誠に光栄であり、心から歓迎申し上げます。

貴学会は、明治 30 年の設立以来、120 年以上の長きにわたり、裾野の広い機械関連技術に関わる学術専門家集団として、日本のものづくり産業の発展に貢献され、特に、年次大会は、研究者・技術者の皆様の新技术や研究成果に基づく活発な意見交換が行われるなど、現代社会の課題解決と未来社会の展望に道筋を示す重要な大会であります。

東北大学工学系同窓会の青葉工業会の会員である私自身にとっても、こうした大会が秋田で開催されることは大変感慨深く、佐々木会長をはじめ、関係する多くの皆様に深く感謝申し上げます。

さて、本県では「人口減少社会の克服」を最重要課題と位置付け、「第 3 期ふるさと秋田元気創造プラン」に基づく施策・事業を実施しており、産業面においては、航空機、自動車、新エネルギー、医療福祉、情報の五つを今後も拡大が見込まれる成長分野と位置づけ、県内中小企業の参入促進や競争力強化に向けて重点的な支援を行っております。

こうした中、本年度から新たに産学官連携による「サステイナブルモビリティ AKITA」プロジェクトをスタートさせ、持続可能な地域モビリティ社会の実現を目指し、本県の豊富な再生可能エネルギーと資源学の伝統を背景に、軽量複合材の低コスト成形法や高占積率コイル成型技術の研究開発などに取り組んでおります。

来年の大会テーマである「サステイナビリティ」、「AI 社会の機械工学」、「少子高齢化・人手不足を支えるテクノロジー」は、まさに本県の課題、取組にとっても時宜を得たものであり、今後の貴学会との連携に大いに期待するところであります。

秋田県は、世界遺産の白神山地や日本一深く神秘的な田沢湖など雄大で美しい自然に加え、山奥の秘湯「乳頭温泉郷」や、ナマハゲの本場「男鹿温泉郷」など実に多くの温泉を有しております。

また、皆様がお越しになる 9 月は実りの秋、収穫の秋のはじまりにあたり、新米の「あきたこまち」をはじめ、きりたんぼ鍋、稲庭うどんや、おいしい地酒など、秋田の豊かな食をぜひとも堪能していただければ幸いです。

年次大会の成功に向けて、できる限りの準備を進めてまいりますので、来年、多くの皆様が秋田にお越しくださることを心よりお待ちしております。

秋田県知事
佐竹 敬久

